

お わ り に

私たちの生活の基盤は、行政サービスに委ねられてきました。高度経済成長期以降、税収の自然増に支えられた行政は、市民の多様化するニーズや要望に応える形で、その役割を肥大化させてきました。私たち市民は、私的な利益を充足することには熱心でしたが、みんなのためのこと、地域の課題解決は行政に一任してきました。本来は持っていたはずの自分たちのまちへの愛着や自治の意識を減退させていったと言えます。

自発的に集まった市民と重ねた十数回にも及ぶ学習会を振り返ると、その一回一回が市民自治について考える貴重な時間だったと感じています。中でも、公開で行った学習会はメンバー以外の市民と学び合い、課題解決のための代替案を提案したり、実際に解決へ向けて動いたりする市民の役割のヒントを得ることができる有意義なものでした。行政職員の方にご依頼した「今治市が設置する審議会・委員会等の現状」をお伺いするアンケートや一般市民の方にヒアリングした「市民参加のまちづくりへの意識の現状」アンケートの分析は、私たち市民が調査機関の職員や大学教授のように、専門的な知識を身に付けているメンバーの集まりではないこともあり、その分析が不十分なところもあると感じています。ただ、得られた情報から、何が問題かを議論し、それをどう解決したらいいのか懸命に考えるプロセスは、私たちに新しい気づきをたくさんもたらしてくれました。こうした取り組みの積み重ねは、私たちメンバーが公共を担うための求められる調査力、発言力などの力を育む機会となりました。

これまで行政に依存してきた市民の意識や行動はすぐには変わらないかもしれませんが、今治市では自主的に取り組む多様な市民活動が活発に展開されています。団体同士や行政との協働を育むしくみを構築することが、社会を支える大きな力になると感じています。行政職員の方には、引き続き、市民が自主的に取り組む市民活動を認知していただき、その活動と行政施策のコーディネートを進めていただくことをお願いいたします。また、市民が行政の政策形成へ関わることができる「審議会・委員会等」においては、市民の合意形成をご支援いただきたくことをお願いいたします。

私たちは今後、この提言の中身の検証を続け、実際に新しい問題解決の取り組みにつなげたいと考えています。私たち市民が学習するプロセスは、新しい自治に気づき、自分たちでまちを担っていく基盤整備の一助になると信じています。

平成19年6月

特定非営利活動法人今治NPOサポートセンター

「市民参加のまちづくりを考える会」

代 表 越智紀方

メンバー 浅野清子 井出祥治 井村雄三郎 宇佐美浩子 岡平知子
越智英志 木村伸樹 小池登四男 近藤健太郎 谷口健一郎
桧垣美香 藤村邦子 御手洗恵子 柳原通賀 山階啓二
渡辺小百合 山本優子（事務局）